

マダニ感染症を知っていますか？

春から夏にかけて山菜取り、キャンプ、ハイキング、登山、ゴルフ、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節となりました。野山に生息するダニなどに刺されることで感染症を起こすことがあります。活動が活発になるこれからの時期に、病気について正しく知り、適切な予防と行動をとれるようにしていきましょう。

●ヒトへはどのように感染するのでしょうか？

マダニによる咬傷、感染患者の血液、体液への接触感染

●マダニ感染症（重症熱性血小板症候群：SFTS）とはどんな病気でしょうか。

特定のウイルスや細菌をもつマダニに噛まれると発症します。

潜伏期間；6～14日

症状：原因不明の発熱 消化器症状（食欲低下 嘔気 嘔吐 下痢 腹痛）

時に頭痛 筋肉痛 神経症状（意識障害 痙攣 昏睡）リンパ節腫脹 呼吸器症状（咳）

出血症状（紫斑 下血）など様々な症状を引き起こします。

治療：現時点ではウイルスに対する治療薬やワクチンはありません。対症療法になります。

※2017年4月時点で、愛媛県、宮崎県、高知県、鹿児島県、徳島県などの西日本で110人が発症しています。気温が上昇してマダニの活動が活発になる**5～8月に多い**ため注意しましょう。

●感染を防ぐためにはどうしたら良いでしょうか。

まずは**原因となるウイルスや細菌を保有するマダニに吸血されないこと！**

マダニの生息場所

民家の裏山 庭 畑 あぜ道

シカやイノシシ、野ウサギなどの生息地



マダニに咬まれた時の特徴について

マダニは体長**3～8ミリ** 肌の露出部分が咬まれやすい

2～3日後に腫れることもある

吸血が進むと**1センチ以上**の大きさになる

咬まれたら**すぐに病院**に行くようにする

*マダニの生息地に行く時には、むやみに藪に入らず、**帽子、長袖、長ズボン、薄手の手袋や軍手の着用、長靴、トレッキングシューズ**をはき、首に**タオルやスカーフ**を巻く、**ハイネックシャツ**を着用するなど肌の露出を避けるようにしましょう。

*衣服についてマダニの対処法

マダニの成虫は**3～8ミリ**と目に見える大きさです。ガムテープなどを使用し、咬まれないように取り除くこと、入浴の時はマダニがついていないかチェックしてから入浴しましょう。

●マダニに咬まれてしまったら。

24時間以内であればピンセットで取り除ける可能性があります。刺し口に棘のようなものが残っていることも考えられるため早めに当クリニックを受診してください。**無理に手の指で抜こうとすると、ウイルスや細菌を自分の体に注入してしまう可能性があります。**

ご不明点がありましたらスタッフにご相談ください。